

1 日本語で自己紹介をする



1 課では初対面の人と自己紹介をする場面でのインターアクションに必要なポイントを学びます。

例1 友達の紹介で自己紹介をするとき

1. 各コマについて

1コマ目	リズ（左）は日本人の友達（右）から、さと子（真ん中）を紹介される。
2コマ目	リズは日本語で自己紹介をするが、さと子は英語で自己紹介をする。
3コマ目	リズは日本語で質問をするが、さと子は英語で答える。
4コマ目	リズは心の中で「日本語で話したい」と思っているが、どうしたらよいかわからない。

2. 話し合いのポイント

- 日本に住んでいても、自然と日本語でのインターアクションが始まるわけではありません。特に、外来性の高い（例えば、外見上の違いが大きい）学習者は、英語で話しかけられることも多いようです。学習者が日本語で話したい場合は、学習者自らが主体的に日本語のインターアクションを行うことが大切であるということを理解してもらうことが重要で、それがここでのポイントになります。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 4コマ漫画のような状況や、途中で英語や学習者の言語に切り替わってしまった場合、自分ならどうするか、日本語でインターアクションを続けるためにはどうするかについて話し合うといいでしょう。また、失礼のないようにするにはどうするか、相手の希望も尊重するにはどうするか、という点にも気づけるように促すといいでしょう。
- この漫画の例に対する学習者の反応が薄い場合は、初対面場面で日本人とのコミュニケーションで困ったことなどについて話し合うといいと思います。例えば、アジア圏の学習者の場合、4コマ漫画の状況とは逆に、「日本語で早口で話しかけられて困った」というエピソードをよく聞きます。漫画の例以外にも、相手との関係（友達の場合、目上の人の場合など）や状況によって、日本語でインターアクションを気持ちよく続けるにはどうすればいいかについて、考えるといいでしょう。
- 学習者から、「日本語で話さなくても、英語だけでも生活ができる」「相手が英語を話したければ、英語のままでもいいと思う」などの意見が出ることもあるかと思いますが。その際は、日本語でインターアクションができることの利点についても挙げてもらうようにするといいでしょう。教室外で日本語を使用することで、日本語が上達したり、生活が豊かになることを理解してもらうと、学習が進めやすくなります。

例2 高校生との交流会で自己紹介をするとき

1. 各コマについて

1コマ目	留学生が高校生との交流会に招待されて、日本の高校に来ている。交流会の最初に、留学生が教室の前に一列に並んで自己紹介をする。
2コマ目	留学生が先生の指示通り、順番に名前と国を言うと、日本人学生は拍手をする。
3コマ目	先生が日本人学生にも自己紹介をするように言う。
4コマ目	日本人学生は次々に名前だけを言う。留学生はその様子に呆然としている。

2. 話し合いのポイント

- 実際に高校生との交流会で同様の自己紹介を経験した留学生から、次のような声がありました。

- ・ 日本人学生の前に立たされて、簡単な日本語を話すと「上手だね」と褒められ、動物園の動物(見世物)みたいで嫌だった。
- ・ みんなに注目されて、スターになったみたいでうれしかった。
- ・ もっと自由に自己紹介をしたかった。
- ・ 日本人の名前は一度聞いてもわからない。(時間がもったいない)

ここでは、「留学生だけ前に立って自己紹介をすること」「みんな同じ文面の紹介(名前+国)を繰り返すこと」「日本人学生の人数が多いにも関わらず、全員自己紹介をすること」などの点について留学生が違和感を持っていることがわかります。これらの点について違和感を持つ学生がいれば、なぜこのようなことをするのか、理由を考えるように促してみるといいでしょう。違和感を持つ学生がいれば、なぜこのようなことをするのか、理由を考えるように促してみるといいと思います。

- この漫画では、留学生が日本の高校を訪問しており、お客様としてもてなされる側で、前に出されたのには、「お客様/主役として扱う」という考えが働いているようです。また、交流会というフォーマルな場面での自己紹介であるため、一人一人自己紹介をするという形式が取られていると考えられます。このような違いに気づけるように話し合いを進めます。来訪のお客様に対するもてなし方の違いに気づくことがポイントです。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 自己紹介のしかたは国によって異なります。話し合いを始める前に、自国で例のような交流会をしたら、どのように自己紹介をするか聞いてみるといいでしょう。
- 経験のない学生は、漫画の意味がわからないこともあるかもしれません。その場合は、「こういう場面に出会うこともあるかもしれない」という視点で話し合うといいと思います。また、「もっと盛り上げるには、あなただったらどんな自己紹介をする？」などのように、話を発展させてもおもしろいかもしれません。

例3 ビジネス場面で自己紹介をするとき

1. 各コマについて

1コマ目	マイケルさん（左）が田中さん（右）の会社を訪問している。 田中さんは自己紹介をしながら名刺を両手で名刺を渡しているが、マイケルさんは片手で名刺を受け取っている。 田中さんは名刺を渡すとき、名前を相手の方に向けている。
2コマ目	マイケルさんはもらった名刺を2つに折り、胸のポケットに入れている。
3コマ目	田中さんは姿勢を正して話しているが、マイケルさんは足を組んでリラックスして話している。
4コマ目	マイケルさんが別れるときに名刺を渡したことに、田中さんは驚いている。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、自己紹介のバリエーションとして、ビジネス場面の自己紹介を取り上げました。日本には、さまざまなビジネスマナーがあり、学習者の国と異なることも多いようです。この場面では、初対面場面のインターアクションに関係する名刺の渡し方、服装、話すときの態度などをポイントにしています。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 国や文化によって大きく違いがあるので、学習者の国や地域では、どのようなビジネスマナーやビジネス文化があるのかについても取り上げるといいでしょう。
- ビジネスマナーは会社や職種などによっても違いがあるので、「～の傾向がある」などのように説明のし方を工夫したほうがいいと思います。また、服装については、クールビズなどもあり、時期によってはネクタイやジャケットを着用しなくても、失礼にならない場合もありますので、注意が必要です。
- 日本では、名刺は相手を読みやすい向きに両手で渡しますが、国によっては向きを気にせず片手で渡すこともあります。また、名刺を渡すビジネス習慣がない人もいるかもしれません。実際に名刺を渡す場面をやってもらいながら、気づきを促すといいでしょう。